

平成 29 年第 2 回総合教育会議議事録

項 目	内 容 記 録
1. 期 日	平成 29 年 10 月 3 日 (火) 13:30 開会
2. 場 所	日野町役場 大会議室
3. 開会 (閉会)	13:30～15:15
4. 出席委員等氏名	景山享弘、山口秀樹 頭本元文、生田一女、景山美由紀、生田 進、長谷川弘信 日野中加藤教頭、根雨小生田教頭、黒坂小末次教頭
5. 町長あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度予算編成に向け意見交換したい。</li> <li>・ 全国学力状況調査の結果について議論したい。議会でも一般質問されている。</li> <li>・ 黒坂小のソニー教育財団に対する 3 年間の集大成となる研究論文を届けていただき、少人数の学校でないとできない取組をしていることに感銘した。</li> <li>・ 高山蝶の研究田淵行男さんが、黒坂に住んでいた頃の蝶との出会いが人生を決めたということだった。子どもの時の経験が人生を左右するものだ。自然の中での体験を大切にしてほしい。</li> </ul>
6. 協議  教育長          課 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生田新委員のあいさつ</li> <li>・ (1) 各学校における学力向上の取組と成果について H29.4 月実施 対象 小学校 6 年と中学校 3 年 8/23 結果が各関係機関に公表 日野町の各学校も分析、検討し取り組まれている。 各日野町内の学校の結果を資料により説明。</li> <li>・ 全国学力・学習状況調査の日野町全体の結果について報告。 「日野町教育委員会 調査結果概要」県教委作成。</li> <li>・ 資料 1 報告 A 基礎的・基本的問題 B 活用的問題 全国と比較した調査結果 小 6 国語 A + 国語 B - 算数 A - 算数 B - 中 3 国語 A - 国語 B - 数学 A - 数学 B + 少人数のため一人の点数が結果に大きく影響する。 全国平均正答数以上の児童生徒数の割合 小 6 国語 A、算数 B は半数以上が全国を上回っている。 中 3 数学 B 以外は半数以上が全国を上回っている。 平均正答率は低いが、全国平均正答数以上の数が半数以上 中学校国語 A、B 小学校算数 A 中学校数学 A 正答数が大きく下回る子がいると分析。</li> </ul>

<p style="text-align: center;">教育長</p>	<p>逆に数学Bは平均正答率が全国を上回っているが、全国平均正答数以上の生徒数が半数以下。</p> <p>③調査結果 バブルチャート 説明  小学校は、A問題は全国より高く、B問題は低い。  基礎基本問題はできているが、活用問題ができてない子が多い。</p> <p>中学校は、A問題ができる子はB問題もできる、A問題ができない子はB問題もできない。特に国語は二極化の傾向。</p> <p>④同一集団の比較 中3  国語B、算数・数学A・Bともポイントが上がっている。</p> <p>⑤標準化得点の推移 H19～29 説明  学年によつての差がかなりある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(2)児童生徒質問紙 学習状況、生活習慣、態度等の調査  小6 肯定的な意見の児童が少ない。  中3 肯定的な意見の生徒が多い。</li> </ul> <p>・3 分析</p> <p>(1) 成果の見られる部分  中学校は主体的に学び、国語力を高めようと努力している。  家庭学習の習慣化が図られている。  小・中とも計画を立てて勉強している子が多く、自主的に家庭学習に取り組んでいる。</p> <p>(2) 課題となる部分  小・中とも十分な力を身に付けていない。  A・B問題とも正答数の少ない子が数名おり、補充学習等個別対応が必要。  自分の考えを表現する力、説明する力に課題がある。  2時間以上テレビを見る児童生徒の割合が高い。</p> <p>(3) 今後の取組  主体的、対話的で学びの深い学び実現に向けた授業改善。  個々に応じた補充的な学習。  家庭との連携の中で基本的な生活習慣を定着させ、自尊感情を高めしていく。  保護者、地域と連携して、皆で子どもたちを育てていく気運を高め、自己肯定感を高め地域との関わりを意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校毎の調査結果チャート 説明  小学校は全国平均より低い、中学校は平均並み。</li> <li>・鳥取県西部、日野郡が学力テストの平均値が低いことが指摘されている。</li> </ul>
--	--

町 長 教育長 町 長 教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県より東部、中部、西部ごと又、各市町村ごとの公表を実施したいとの申し出あり。問題となるのは、各学校の序列化。各町村の公表については、同意を得るのが原則。協議の結果、県、東・中・西部の公表はするが、市町村ごとの公表はしない、公表は各市町村に任せることとなった。日野町は従来通り公表。鳥取県総合教育会議に資料は開示される。会議は公開されている。</li> <li>・ 全国学力調査の目的は何か。</li> <li>・ 学力向上が目的。</li> <li>・ 学力向上が目的なら、学校の範疇で収めたらよい。</li> <li>・ 昨年 11 月、県総合教育会議で東中西で温度差があることが指摘され、県議から東中西部の結果を公表して、手だてをすべきではないかという質問があった。県知事は、税金を使って学力テストを実施しているなら、公表するのが原則だと言われた。それを受け県教育委員会は、市町村の合意を得て公表するため各地区を回って説明された。日野町としては反対した。議論の結果、町村ごとの公表はしないという結果を 9 月 26 日に説明をうけた。日野町は従来どおり町広報により結果を公表する。</li> </ul>
町 長 教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小規模校はひとりの結果が大きく影響するので意味がない。</li> <li>・ 西部教育長会では、平均点が低いのは事実だが、公表するだけでなく予算的、人力的配慮としての施策をとってほしいという見解を示している。</li> </ul>
町 長 加藤教頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力調査はいつまで実施するのか。巨額な予算を使ってどれだけの成果があるのか疑問。</li> <li>・ 平成 32 年に英語が追加されるので、それまでは継続されるのでは。</li> </ul>
副町長 教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県総合教育会議で各町村の結果が資料として提出し開示されれば、全市町村の集計も可能。</li> <li>・ 公表については教育委員会で決定。総合教育会議には資料として提示される。</li> </ul>
町 長 教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公表して結果を県民に知らせて何になるのか。</li> <li>・ 県教育委員会は、県議会の指摘を受けて行っている。公表することで県民の理解が得られ、事業を進めていくことができるとしている。</li> </ul>
頭 本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日野町は「読書が好き」「協力してやり遂げる」「計画立てて勉強」という項目が優れているところが大事。</li> </ul>

	<p>「地域に関心」「地域行事に参加」が低いのが残念。地域としても何かしなくてはならない。</p>
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと教室を実施したり、地域行事に積極的に参加しているように思っているが、なぜか調査結果は低い。</li> </ul>
<p>課長 加藤教頭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査対象が小6と中3のみ。学年によって差があると思う。</li> <li>・調査結果により誤答傾向を分析し今後の取組を検討している。</li> </ul>
	<p>「みんなでつくろう鳥取の学び」の10項目に基づき授業をつくっている。生徒が授業を理解した姿を想定し授業を組み立てていき、授業の終わりに成就感を味わえるようにする。生徒も保護者も授業は分かったと言っているが、学力状況調査の結果はあまり良くない。手厚く対応しているが、数名の低位者を引き上げることが難しい。</p>
<p>末次教頭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題の範囲を特定したり、能力別に指導したりしている。</li> <li>・結果を分析し、B問題が極端に低いのは自力解決ができていないのではないかという結論。先生が教えすぎて、自分で解く機会が少ない。算数は最後の発展、適応題までは必ずする、国語はまとめを必ず自分でしようということになった。</li> </ul>
	<p>自立した子どもを目指した授業改革を行う。 宮沢賢治「注文の多い料理店」を読んで、他の本にも応用していく、単元計画を立て教科書以外の本も取り入れていく。 「書く」作業により自分の意見をまとめさせていくことが必要。</p>
<p>生田教頭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B問題が低い理由は、勉強することへの体力が弱い。最後まで取り組む粘り強さが足りない。</li> </ul>
	<p>家庭の協力 メディアとの関わりについて取り組んでいるが学校と家庭が同じ方向になかなか行かず、学力状況調査の結果を知ってもらい、取組のお願いをしていく。</p>
<p>生田一</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実のある授業研究となっているか、授業改革が課題。</li> <li>・先生によって授業の差がある、授業研究で指摘し向上させていくことが大事。中学校では「書く」ことに取り組んだこと</li> </ul>
	<p>によって生徒が伸びた。</p>
<p>町長</p>	<p>分かっている、まとめたり発表する力が不足している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校で分析、検討された結果を2学期以降取組まれることに期待している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の協力を得て進めていくことが基本。保護者の理解度がどうか、保護者会のレベルを上げていけばよいが難しい。</li> </ul>
<p>頭本</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業だけでなく普段の授業を見て研究することが必要。</li> </ul>

末次教頭	・ 作文など文章を書く機会が少なくなっているのではないか。 ・ 日記を書いているが、作文というより報告文。作文の質を上げていくことが必要。
頭 本	・ 例えば1週間に一度、印象に残ったことを400字以内を書くなど実行してみてもどうか。
生田教頭	・ 書くことへの抵抗をなくすため、短時間で取り組むことから始めて慣れる。
生田進	・ 自校だけでなく、町内の全学校で共有して取り組んでほしい。中学校では1校時ごとのゴールを決めて授業を行っている、小学校でも取り入れてつながりを持たせたらどうか。
町 長	・ 採用試験でも作文ウエイトが高い。日野町で力を入れれば、社会に出たとき役に立つ。
副町長	・ PTAには公表するのか。
教育長	・ 各学校で行う。
副町長	・ 公表した機会に、保護者に危機感をもってもらおう。 ・ ICT機器を駆使して生かしてほしい。 ・ 町独自でも研修費や旅費、講師料など負担できるので、ぜひ提案してほしい。
景 山	・ 自尊感情、自己肯定感を育てることは難しいと感じた。
教育長	・ (2)平成30年度に向けての各学校からの要望等について
加藤教頭	・ 各教室カーテン、教室ドア取替、すのこ、屋外テント購入、LED門灯修繕。
末次教頭	・ プール管理室防水工事、循環器取替、電子黒板用パソコン購入、複式解消人員配置、図書司書配置日数増。 児童用パソコンは、初期化しないといけない、再セットアップに時間がかかる。
生田教頭	・ 放送設備修繕、英語指導教員配置、5、6年生教科担任制、ALT継続配置。
教育長	・ 根雨小 エレベータ設置要望あり。財政推計には計上していない。
景 山	・ 設置理由は。
教育長	・ けがをした子がいる場合、図書運搬など。
町 長	・ 学校給食の残食はどうか。 小学校 なし、中学校 割とある。 ・ スマホの弊害はないか。 小学校 所持なし、中学校 所持はないが問題は多少ある。 SNSの問題、保護者のスマホを使用している。 家庭での状況、生徒の特定はおおむねできている。

<p>課 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習時間の確認はどのようにしているか。 毎朝、自己申告。男子、5割以上が2時間以上ゲームをしている。 スマホ、ゲームの時間が増えていることを懸念している。</li> <li>・ 英語寺子屋について 開催回数、内容、状況を説明。 書くスピードも速くなり、楽しんでいる。 自分の考えを英文で表記したり、教科書以外の読物を読めるよう取り組んでいく予定。</li> <li>・ 教職員の研修について 来年度、ワークショップ形式の研修会を実施したい。 海外留学研修も考えたい。</li> <li>・ 中学生海外研修について実施できないか考えている。 シンガポール 3泊4日 1人200,000円程度。</li> </ul>
<p>7. その他</p>	<p>なし</p>

平成 29 年 10 月 3 日

日野町総合教育会議